

# みつくら

令和 4年 7月15日 第366号  
 発行 大瀬川活性化会議  
 編集 「みつくら」編集委員会  
 花巻市石鳥谷町大瀬川10-45-2  
 大瀬川振興センター 電話45-6472

“お〜い!集まろう!創ろう!みんなの大瀬川!”

## 「大瀬川の歴史事典」全4巻を自作出版

菅原得之さんは、今までに書き留めていた大瀬川に関わる資料を再編成し、地域の人物・宮沢賢治との関わり・屋号・東日本大震災など、今までに聞き取りや文献で調査した大瀬川の膨大な記録(約6千項目)を50音順に整理して、見やすく、調べやすくした「研究書 大瀬川の歴史事典」B5版全4巻(775ページ)を製本機を購入して自費出版した。170部(1部4巻)を製本し、県立図書館などに寄贈した他は親しい方々に進呈、現在20部残っているので欲しい方はご連絡(080-1836-6029)頂ければ対応したいとのこと。

昭和60年に「大瀬川家族写真集」が発行されてから38年になった今、写真集を見ると懐かしくもあり、部落を知る・人を知るに役立っている。この歴史事典も、新たな大瀬川の歴史保存として今後大いに役立つことだろう。大切にしたい。

## 大瀬川たろし滝保存会が環境大臣表彰

2022年度地域環境保全功労者として、大瀬川たろし滝測定保存会(熊谷幸夫会長)が環境大臣表彰を受賞した。環境省では、毎年6月の環境月間に合わせて地域環境保全や地域環境美化に関して顕著な功績者(団体)に対し表彰を行っている中で、地域環境保全功労者表彰は、全国で54件(20名。34団体)で、岩手県からは1団体が選考され、当保存会は冬恒例となっている葛丸川に注ぐ沢水が凍りついた「たろし滝」の太さを定期的に計測して作柄予測することで、地域環境の変化の発信・たろし滝の伝統と継承・水辺環境保全と啓発などに貢献していることが評価された。

本来、受賞式は東京都内で行なわれるのだが、コロナ禍のため県南広域振興局花巻保健福祉環境センターで熊谷会長と菅原黎治副会長が受賞式に臨んだ。その後、上田東一花巻市長に受賞の報告をし、これからも地域と連携して活動に取り組むことを決意。上田市長からも、「大きなたろし滝を見ると嬉しくなる。これからも地域で盛り上げて続けてほしい」と激励を頂いた。

ちなみに、平成20年11月に岩手県環境保全活動表彰(水資源部門)・平成25年は日日新聞文化賞(地域振興部門)を受賞している。測定を始めてから令和4年で48回目となるが、自然に手を加えずに「たろし滝」の測定活動を継承するためにも地域民の協力と会員の増加が望まれる。

## 13分団で消防訓練を行う

花巻市消防団第13分団(畠山敏広分団長)では、6月19日、石鳥谷総合支所西側駐車場で、1部~4部合同のポンプ中継送水訓練を行った。コロナ禍でポンプ操法訓練や消防団全体の訓練が数年実施できない状態のため、各分団で訓練を行なっている。今回第13分団では、畠山勝敏副分団長の指揮のもと火災発生時のポンプ中継送水訓練として、実際に水を使い、4部の可搬ポンプに3部の自動車ポンプを繋ぎ、さらに2部の可搬ポンプと1部の自動車ポンプを中継して消火訓練を行った。その後、花巻北消防署からポンプ連結時の圧力調整や無線による連絡等のアドバイスや総評を頂き訓練を終了した。

今回大瀬川地区からは、1部が熊谷和紀部長、板垣雄一・藤原美輝班長、柳原紘樹・熊谷信人団員、熊谷修治機能別団員、2部からは、畠山智明部長、菅原善孝・菅原渉班長、菅原亮団員、畠山義弘・菅原正義機能別団員が参加している。

## 2回目の草刈りは自作耕地

下大瀬川美土里の会(高橋義晃代表)では、6月18日に55名が参加して2回目の一斉草刈りを行った。今回は、自作耕地が対象で、9区に農地を所有する9区以外の方々も参加して午前中の4時間作業に汗を流した。

6月4日、1回目の草刈り時に卵を抱いたカモの巣を見つけ見守っていたが、6月29日に見たときは巣は空っぽで、卵は無事に孵化したものと思われる。

## 有意義であった市政懇談会

6月21日、大瀬川振興センターで行われた令和4年度市政懇談会は、市側から上田東一市長、菅原浩孝石鳥谷総合支所長など10名、大瀬川の住民22名の合わせて32名が出席した。新型コロナウイルス感染症の影響で令和元年7月以来、今回が3年振りの開催となった。

従来の市政懇談会は、住民各自の提言や、要望などに対して、行政側から説明があったが、今回は「大瀬川地区の懇談テーマ」を設け、市と住民が交互に話合ったので、かつてない程内容が濃い懇談となった。聞いていて、これが本来の市政懇談会の姿だと思った。

懇談テーマは『鳥獣被害対策について』と『未来につなぐ地域づくりの場について』の2題であった。これに対する答弁は、市から詳しくなされたが、間もなく正規の「懇談会記録」が大瀬川振興センターに届くので割愛し、市政懇談の様子をお知らせしたい。まず、菅原教雄さんから『鳥獣被害対策について』として「平成29年度と令和元年度の懇談会で大瀬川地

区のカマやイノシシ、ニホンシカの被害対策が話合われた。しかし、特にクマとイノシシの被害は近年非常に多くなっていて、令和3年度に補助金を活用した電気柵を設置し始めたのが現状である。獣避け対策だけでは限界があるので駆除を前提に捕獲に取り組むべきと考える。そのためには、捕獲罠を掛けるにも狩猟免許が必要なので、狩猟免許保持者も高齢化しており、若年層への拡大が喫緊の課題と思われる」と提言され、それに対して市当局と熊谷秀夫さん、菅原黎治さん菅原純一さんらから意見を含めた懇談がなされた。

次に熊谷敏江さんから『未来につなぐ地域づくりの場について』が提言され、「コロナ禍で、大瀬川では交流の場が極端に減少している。それでなくても農業後継者不足や役のなり手不足、さらに若い世代の地域離れが進み、大瀬川の地域力が低下している。地域づくりに大きく貢献した婦人会も解散した。今まで平成29年と令和3年の二度にわたって課題解決に向けたワークショップを開催した。ワークショップにはPTAや青年部、消防団、交通安全協会、婦人会など青壮年層に呼びかけて実施した結果、多くの建設的な方向性が打ち出された。2つのワークショップに共通して言えるのは、「誰でも気軽に立ち寄れて話し合える「場」がほしいという多くの声であった。公共施設とは別の「場」をどの様にして設ければいいのか」という識見の高い提言であった。これに対しても市当局と参加者から意見や討論がなされ、かつて経験した事がない程真剣な「市政懇談会」であった。

## 葛丸川釣り大会3年ぶりに開催する

葛丸川淡水魚愛護組合(菅原 昇組合長)主催の第54回ニジマス釣り大会が3年ぶりに6月26日の朝、山祇神社周辺で開催された。大会は、一般が32名(内女性2名)ジュニアが10名(内女性3名)、ほかに家族や役員を含んで約90名が参加して行われた。大会前日に組合が約800匹のニジマスを放流したこともあってか開始早々に釣果があり、大漁賞で46匹、大物賞では25.9センチと数々の入賞発表もあり、参加者らは大変喜んでた。

一方、同じ前日、葛丸川上流のポケットパーク周辺では、同組合と葛丸の農村環境を守る会が共同で、ヤマメ稚魚約1000匹を放流し大瀬川子供育成会の子供達を含めた23名が参加した。ヤマメは1年で15センチ位までに成長する。

## 多くの人で花壇に苗植え

6月12日朝、8区自治公民館(菅原洋二館長)では8区2班と3班の当番で、38人が出て大瀬川運動公園南花壇に5種類の花苗を植えた。苗は花工房さ〜らから購入し、ペゴニアの赤と白が各100本、サルビアの赤が100本、マリーゴールドの濃橙が100本、アゲラタムの青紫が100本、ケイトウの緋赤が50本の合計550本を20分ほど植え終わった。植える際には小かった苗も7月の初めには綺麗に咲きそろっていた。

## みつくら

令和 4年 7月15日 第366号  
発行 大瀬川活性化会議  
編集 「みつくら」編集委員会  
花巻市石鳥谷町大瀬川10-45-2  
大瀬川振興センター 電話45-6472

“お～い!集まろう!創ろう!みんなの大瀬川!”

## 尾平の大木に落雷

7月5日18:10に尾平の市道黒森開拓線脇(松木田家のブルーベリー畑付近)の杉の大木(熊谷政男所有林)に落雷し、縦に大きく裂けて道路に倒木した。杉は、胴回り27.5cm(直径8.7cm)もあり、あれほど大きな落雷被害を目にしたのは初めてだった。翌日の「自生花菖蒲園・野点の会」の準備には通行出来ず、千鳥苑から迂回して現地に行った。この日9:00に石鳥谷総合支所に通報したところ、何と早いこと、1時間後には作業車が到着し倒木を撤去した。

(以下記録)大瀬川の落雷は、平成13年前の記録誌はないが、平成13年10月11日に桃ノ木(茶屋)の電柱に落雷。170戸が停電そし、12時間後に復旧。大瀬川ではトタン屋、廿木家、桃ノ木家、柳原魚屋、谷地家、大地渡電家が合わせてパソコン2台、靱乾燥機3台、テレビ2台、ボイラー2台が、また魚屋の大型冷蔵庫が被害を受けた。平成14年10月15日には、高田電家前の電柱に落雷し板垣賢仁さんはボイラー、板垣正子さんはボイラーと電話、板垣功さんは電話に被害。

平成19年8月22日には久助家の電柱に落雷し、大瀬川、好地、北寺林など400世帯が停電。当日は午前8時ころに花巻空港では一時間に33mmの豪雨を記録し、午後5時には総雨量64mmを記録した。

平成23年5月3日に善助家東の杉に落雷あり、杉の木が裂け折れ、姉屋敷家のテレビ、洗濯機、冷蔵庫などが被害。

平成23年7月12日に御所森の井戸の電柱に落雷、紫波町片寄から大瀬川に掛けて430世帯が停電。平成26年6月21日に長助家付近の水田に落雷し山羊屋ではFAXが破壊。

平成27年5月15日午後5時50分ころに熊谷賢良さん宅屋根のパラボラアンテナに落雷、二階の軒の一部が剥がれ落ち、テレビのアンテナを通してカーテンレールが焼け、配線を落雷が走った。このため、BSアンテナやテレビ換気扇、電波時計、プレーカー、スイッチなどが焼け飛んだ。中谷地家ではテレビが1台、野田家では湯沸かし器が、長八竈

家ではテレビアンテナと分離器が被害にあい、善助電家ではガスコンロのメーターが焼け、コンロから火が噴いた。越田家では落雷した付近から針金を張ったのに愛犬を繋いでいたが、丁度熊谷賢良さんが犬の散歩中で外谷地の低地にいたので犬も助かり、熊谷浪子さんもハウスの中だったので怪我はなかった。この時、谷地家の板垣禮子さんは、丁度中谷地の田んぼにいたが無事だった。野田家の熊谷キヌヨさんは「嫁にきてから落雷は2度目で、今回は外の方に太く赤い火の柱が立った」と語った。

平成27年6月7日に菅野裕二(姉屋敷家)さん宅に落雷。被害は不詳。平成27年6月16日に畠中家(高橋あや子さん宅)の北側にある水田に落雷。早苗は円形に縮れていて、周りは分蘖(ぶんけつ)が進んでいるのにその部分だけが田植え直後の様であった。この落雷で畠中家では一時電話が不通になったが、電話会社の対応で間もなく復旧した。100m程離れた留屋敷家では、テレビやボイラー、電話機等が破損し、他にも配線やACアダプターが焼けてさわれない程の熱さであった。

令和2年6月16日15:40にKDDI大瀬川無線基地局(上栄ノ上家西側)に落雷し、近隣の携帯電話やパソコンが使えず。復旧は6月17日23:00。

令和2年8月30日13:30頃、立野家の板垣匡俊さん屋敷杉に落雷。杉の皮が天辺から根元まで剥がれ、根元付近のトタン堀にも落雷し、500円玉ほどが焼けて穴が空いた。板垣匡俊さんの被害は、停電やボイラーの破損、電話線(屋外)が切断、玉山昌三さんはボイラー、板垣弘清さんはテレビが壊れている。尚、大瀬川の方の落雷による死亡事故は、昭和62年に畑部落の長洞家生まれの藤原市太郎さん(石鳥谷町好地7-120-1)は、大迫町外川目21地割で山菜採りの最中に落雷に遭い死亡している。

## 満開の花菖蒲園で野点の会

葛丸の農村環境を守る会(構成員372名、板垣幸夫会長)主催の「野点の会」は、7月6日に29名が参加して満開の大瀬川自生花菖蒲園で行われた。板垣幸夫会長は「何かとお忙しいところ、このように大勢の方々に参加していただき感謝します。現在は貴重な花菖蒲園を当会が保全活動をしているが、当会もいつまで存在するのか解らないので、ゆくゆくは独自の保存団体を組織する必要があるのではないかと挨拶された。コロナ禍で来賓は招かなかつたが、出席した熊谷秀夫大瀬川活性化会議会長から「今年も満開の花菖蒲の中で、このような催しを行ったことに敬意を表します。今日はゆっくりとお点前を味わわせていただきます」と挨拶された。

お点前の前に、昨年度に続いて市教育委員会伊藤真紀子文化財課長補佐から講話をいただき、「花環堤(はなわつつみ)の花菖蒲」をいただいた。花環堤花菖蒲群落は昭和10年に指定された国の天然記念物である。伊藤さんは、「花環堤の面積は、ここ(大瀬川自生花菖蒲園)の10倍あるが、茎の数は約4千本です。10年前まで、立ち入り禁止と共に、国の天然記

念物だから手を入れられないという誤解もあって、茅株などをそのままにしていたために著しく花の数も減少したが、現在は茅株の刈り取りのなど管理の結果少しずつ増えてきている。初めて見せていただいたが、この群落の美しさを地域の財産として残していただきたい」と話された。

今回も茶人は畠中家の裏千家師範高橋宗綾さんで、お手伝いに菅原和子(堰合家)さん、高橋厚子さん(新田家)、菅原文子(茶畑電家)の4人の御世話で美味しいお茶をご馳走になった。大瀬川自生花菖蒲園の花茎調査は、令和3年8月5～6日に行っており、その数は1万3千198本、花の数は1万9千797ヶであった。

## 小屋場に子熊が出没

花巻市の広報車で「大瀬川で熊が出没しています。注意して下さい」と今年に入って2回(もっとかも知れない)ほど聞いたが、7月8日午前8時10分に宮澤賢治やまなし園(御所森の県道東側)から出没した子熊(大きな犬くらい)に出くわした。

車で後を追うと、板垣匡俊さん宅の庭に侵入し、板垣美喜子さんは慌てて家の中に逃げ込んだ。その後、板垣幸夫さん宅西側の熊谷恭一さん所有の田んぼを横切ったところで筆者に向かって仁王立ち!!。可愛い顔をしていたが熊である。今度は、道ばたで草取りをしていた小笠原チヨさんの側を通過して、上金矢家の屋敷に侵入した。吃驚した小笠原さんは熊の後を追っていた筆者に「ありやありや、あそこに熊が・・・」と叫んで注意を呼びかけた。上金矢家まで追ったが、北寺堰を簡単に飛び越えて板垣忠治さんの屋敷に入った所で見失った。その5分後には葛丸の農村環境を守る会の畦畔一斉草刈りの朝礼にきた関村忠志さん達数人が「大瀬川振興センターの駐車場を熊が横切り、板垣光善さん所有の田んぼに逃げて行ったっけよ」と話していた。今回被害は確認されていないが、人家付近に出没していることから注意を喚起したい。

## 8区自主防災会が倉庫の備品の点検と試運転を実施

8区自主防災会(菅原洋二会長)は6月12日に花壇の苗植が終わった後、備品の点検と発電機の試運転を行った。

点検は去年の秋以来で、台帳と突き合わせながら数量を調査したところ、一部の備品が購入時のままだったため、すぐに使用できるよう組立を行なった。

また、発電機が中々始動しなかったため、説明書を確認すると、スイッチを「入」にしていないと始動しないことが書いてあった。これでは非常時に手間取ることになるので、簡単な説明書を添付することと、定期的に試運転の練習をした方が良いとの意見が出た。さらにタンクに水分が溜まるのを防止する対策として、ガソリンを満タンにすることも併せて行った。

次回は、秋の点検を予定し、整備する備品等を検討することにした。